

モルドバにおける日本文化紹介事業報告書

柴崎パメラ

こんにちは、モルドバジャパンの柴崎です。

2019年12月2日～9日にかけて、日本舞踊の師範であり、ゆるりと茶の湯(<https://www.yururito-chanoyu.com/>)アドバイザーでもある草柳明美女史にモルドバにお越しいただき、キシナウ市内に位置する3カ所の会場で日本文化を紹介するイベントを行いました。今回の滞在には私もコーディネーター(こう申し上げるととても偉そうな感じがしてしまいますが、大したことはしておりません(笑))として同行して参りましたので、イベントの内容や参加された方々の様子などをご報告いたします！



クリスマスシーズンのモルドバは初だったのでテンション上がりました！

モルドバに到着後、最初のイベントが行われたのは12月4日。会場は、モルドバジャパンが運営のお手伝いをしているカザネシュティ村子供デイケアセンターです。

まずは草柳女史による日舞の披露から。その後子供たちの茶道体験、在校生からの伝統ダンスの披露、その後生徒たちからモルドバの伝統的な輪ダンスを教えてもらい、手をつないで一緒に踊りました。最後に全員で日本の盆踊りを踊り、イベントは無事に幕を閉じました。



躍動感とスピード感溢れるダンス、圧巻でした！

お抹茶の体験では、草柳女史が日本から抹茶とお茶碗、茶筌など一通りのお道具を持って来てくださり、子供たちは本格的な茶道の体験をすることが出来ました。しかし、すべて飲み切れずに残してしまう生徒も多く、「やっぱり子供たちには苦すぎたのではないか」という不安や、せっかく持ってきていただいたお抹茶が無駄になってしまったことに対する申し訳なさもあり、私は今回のイベントは失敗だったかもしれないと感じました。

しかし素直にそのような気持ちを打ち明けた際、草柳女史は「苦くてもいい。飲み切れなくてもいい。どんな風を感じたとしても、経験することに意味があるから」と仰ってくださいました。この言葉で私自身が救われたのはもちろん、それこそがダイケアセンターでイベントを開催したり、学習女子大の学生さんに毎年来ていただいている目的だったのではないかと、ハッとしました。

彼らがモルドバ以外の広い世界があることを直に知り、文化を直接体験し、違う言葉を話す見た目の違う人たちがいることを知り、自分の未来を広く思い描く手助けをするために、私たちは彼らと関わっているんだと、改めて私たちの存在意義を再認識することができました。



12月6日には、美術大学に併設されたイベントスペースで現地の学生さんに向けて日舞の披露と茶道体験を行いました。もともと日本文化に興味を持っている学生さんが集まってくださったこともあり、草柳女史からの着物や茶道文化の説明に真剣に耳を傾けていました。ダイケアセンターでのイベントよりも、「文化の学び」にスポットを当てた今回のイベントは学生さんからも好評で、着物姿の草柳女史と嬉しそうに写真を撮ったり、中には「ぜひ今度はぜひ僕が生まれた村に来てよ。モルドバの伝統的なおもてなしをするよ！」と約束をしている学生さんもいました。イベントを無事に終えることが出来たのはもちろんですが、この機会を通じて、また次のつながりが生まれる光景を目にすること出来たのも、私にとってこの上ない喜びでした。



最後にイベントを行ったのは、キシナウ市内に3店舗を構える TUCANO Coffee です。このイベントはモルドバの観光会社である Tatrabis 社の協力を受け実現に至りました。こちらは一般の参加者を募り、最大限「オーセンティックに大人が楽しめるようなイベント」をコンセプトに開催し、カフェの2階を貸し切り、落ち着いた雰囲気ゆったりとした空間を作ることが出来ました。

落ち着いた雰囲気の中でも、2人のペアになって、目の前に座っている人にお茶を点てるというルールや、素早く手を動かして細かい泡を作るという説明に、皆さん子供のように目を輝かせて新鮮な気持ちで取り組んでいらっしやっただのが印象的でした。旦那さんと台湾にお住まいだったことで以前からお茶の文化に興味があったという方は、中国茶とは全く違う素晴らしい体験だったと、イベント終了後に直接感想を伝えに来てくださいました。



どのイベントも、現地で場所の手配や通訳、移動のサポート等をしてくださったすべての方々のお力添えがあったからこそ、無事に開催することが出来ました。携わってくださったすべての方々に心から感謝申し上げます。

また、すべてのイベントで「心のつながり」を第一におもてなしをしてくださった草柳女史は、昨年 5 月に初めてお会いした際、私がモルドバとのハーフであることを知った瞬間に「ぜひ行きたい！」と仰って下さいました。あの時、その一言が無ければ今回のイベントは実現に至りませんでした。モルドバまで来ていただいたことはもちろん、素晴らしい時間を作ってくださったこと、今後私がモルドバに関わっていくうえでの沢山の示唆とアドバイスをくださったこと、沢山のお心遣いに心から感謝申し上げます。

以上、モルドバでの日本文化紹介イベントのご報告でした。サポートとして同行したに過ぎず、モルドバの人に楽しんでもらうことが今回のイベント開催の最大の目的でしたが、一番学びや気づき、充足感を得られたのは私自身だったように感じます。本当に素晴らしい経験でした。

今後とも、より広く大きくモルドバと日本を繋げる事業ができるよう努力して参ります。ここまでお読みいただきどうもありがとうございました。

